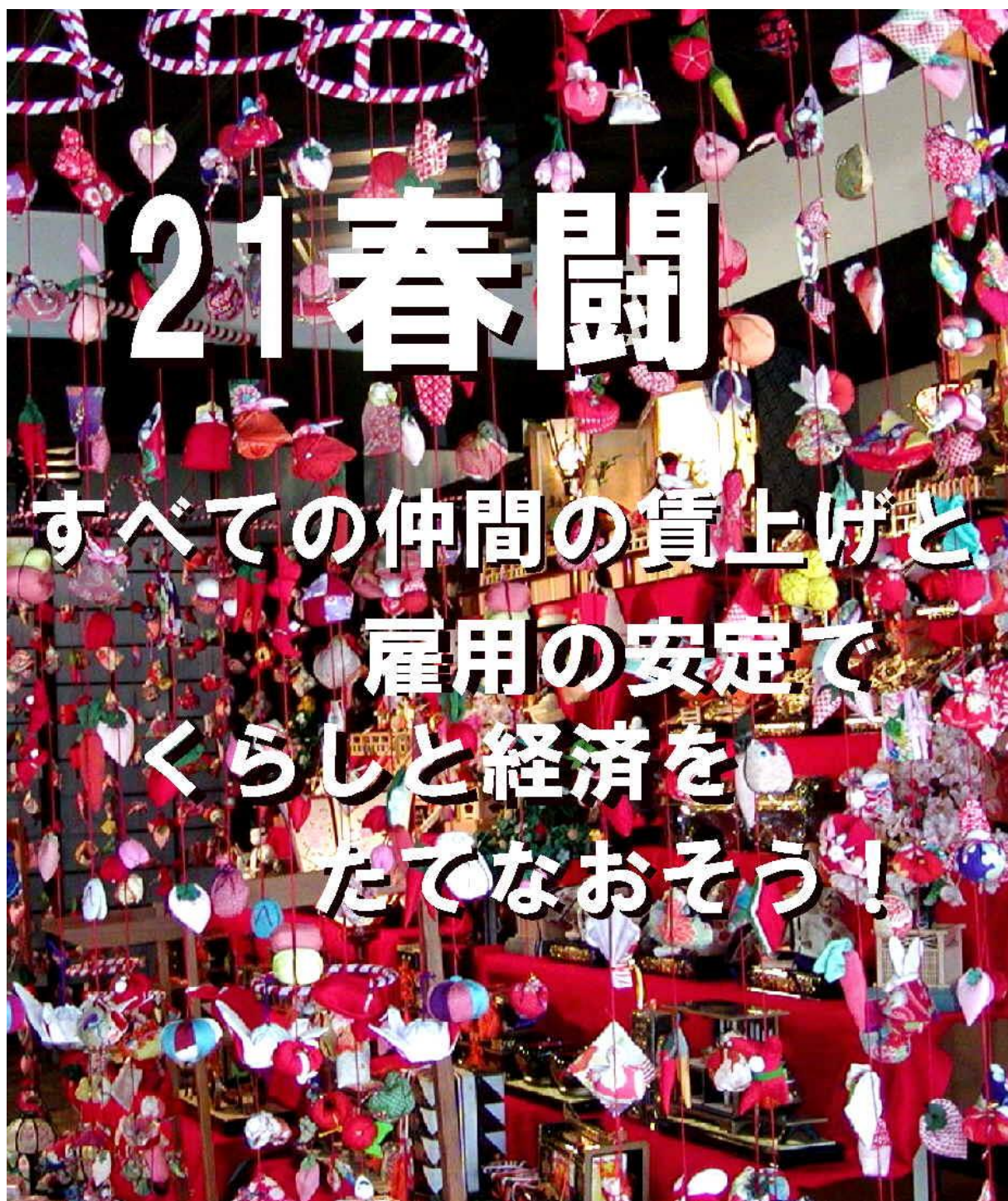


月刊
JMITU

デネコカ

新型コロナ対応版



21春闘

すべての仲間の賃上げと
雇用の安定で
くらしと経済を
たてなおそう！

3月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガグループ分会 2021年発行

No.435

2021年春闘・夏季一時金回答

利益は出ているのに昇給は変わらない。

3月24日セガより春闘・夏季一時金要求についての回答がありました。

賃上げ回答

ベースアップはなし

定昇のみ

平均賃上げ額は

4928円

今までより賃上げ額が低くなっているが、セガ3社（旧CSOL人事制度、旧SIC人事制度、旧SGN人事制度）で制度が違う為、SGNの方が元々賃上げが低くなっている制度の為、全体の平均額が低くなります。

来年からは新制度に統一されるのでこうはならない。

組合「すこもり需要もあり、セガの業績的には良いが昇給額は変わらないのか。」

会社「業績は昇給ではない、業績で反映させたことはない業績が悪いからと言って給料を下げたことはない。過去のベースアップも違う目的で行った。」

組合「定昇と言うが、資格の上限に達してしまっている人は上がらないではないか。しかも新たな制度は年齢給部分もなくなるので昇給がゼロになる。」

会社「上限に達している人は上がらない。その資格の定義にならない限り、上限に達したからと言って昇給は出来ない。」

夏季一時金

夏季一時金については検討最終段階であり後少しで方針が決まる。月末にはお伝えできる。

新人事制度について

会社「ステージが上がれば上がる根本的な発想は今までと変っていない。何を変えているかと言うとみんなが平均的に上がると言う要素をなくしている。年齢に給料が紐づくではなく、能力がある人にあげたい。一般層について4等級は多すぎるかなと言うことで変えている。」

社内での格差も増え今以上にギスギスした職場環境になるのは、目に見えています。

私達は会社からの給料で生活しています。会社での成果が出せないからと給料を下げられてしまったては、生活できなくなります。歳を重ねるたびに、

生活費は上がっていきます。

結婚をして子供を持ち、家建て、子育て、教育費や塾のお金、親の介護、医療費、老後の為の貯金と会社の成果だけでこの生活を壊されては困ります。

歳を重ねてこれぐらいの賃金になると言う将来の設計が立てられない、成果主義賃金には反対です。

SLS春闘回答

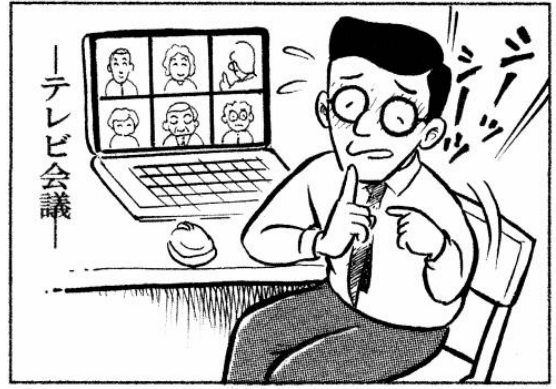
3月10日に春闘・夏季一時金要求についての回答がありました。現在調整中で回答することが出来ない。今期は赤字になる来期も非常に厳しい。

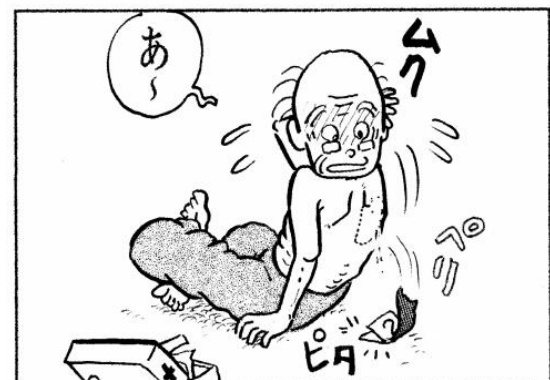
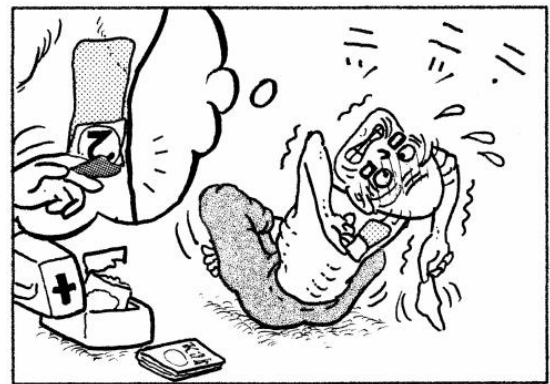
今春闘から今まではセガにあわせていたが、賃上げ、夏季一時金は、SLS独自の回答になります。

回答については今月末に回答できます。

4こま漫画

川崎よしき





花見の自粛

仙洞田一彦

桜の開花が早い。各地での記録を作ったようだ。四月の入学式に桜が咲いていればいいなあなどという思いは、

既になつかしい昔話になったのか。学校の門に立てかけてある「入学式」と書いた看板のそばに立つ記念写真。そこに桜の花が写り込んでいるのはうれしいし、「入学式」の文字も引き立つ。

身の回りの桜も、四月の声を聞く前に、もう散り始めている。たまたま今年だけ早かったのか、温暖化のせいであんなったのかも気にかかる。何十年前のことか忘れたが、

四月の第一週の週末の夜、近くの公園で花見があった。寒

さに震えながら一杯やっていた記憶もある。花冷えという言葉もあるから、こうしたちぐはぐも不思議ではないが。こう暖かいと、懐かしささえ感じて思い出す。

上野公園も、目黒川も去年同様、花見が規制されるという報道。シートを敷いての花見はいけない、立ち止まってしまうのは花見は駄目だということらしい。

ほぼ一年、不要不急の外出は控えてと言われてきた。感染者は少し増える傾向にあったが、緊急事態宣言が解除された。解除理由のひとつに、続けても、気のゆるみであまり効果がないからだというの

があった。

子供の頃「遊びに行くのは、宿題が終わってからにしない」と言われ続け、いつの間にか親は言うのが口癖のようになり、子供の方も「うん」「はい」とは返事をするものの遊びに出てしまう。結果、見たいテレビ番組を我慢したり、半分居眠りをしたりしながら宿題しなければならなくなるのだが、それもありふれた家族の暖かい風景。

毎日、毎日言われれば窒息するのは大人だって同じ。大切なこと、守らなければならぬことと分かっていても、自由に呼吸したくなる。まったく守らないわけではないが、このくらいはいいだろうとなるのは人情かもしれない。

親は言う、「宿題しなくて、

困るのはあんたでしょ」と。コロナで、感染が広がる理由に気のゆるみを言われると、「えっ、自業自得？」と違和感がある。すでに不要不急という言葉は、私の頭にも刷り込まれている。

散歩に出る時、「これは不要不急か」と自問し、「いや、健康保持のために必要だ」と自答する。そして自宅のドアを開ける。疲れてちよつとコーヒーでもと、喫茶店の前で立ち止まる。「これは不要不急か」と自問し「これくらいはいいだろう」と自答して、店に入る。表から店内を見て、混んでいるようだったら入らない。招待券を貰った絵画展に行

くとき「これは不要不急か」と自問し、「芸術は生きるに必要だ」と自答して出掛ける。自問自答の言葉遊びではなく、きっちり刷り込まれてしまったのだ。

歯科で治療を終えて、会計を待つために待合室に戻った。歯科の治療だからマスクは外している。

これを言うと眼科で目撃したことを思い出す。眼科の椅子は背もたれのない丸椅子だ。眼科医が目薬を差すために、患者に「上を向いて、目を開けて下さい」と言う。言われた患者は、白髪で皺だらけの、私と同様の年寄り。丸椅子だから膝に手を置いて背を伸ばし、上を向く。そうすると顎が引っ張られるものだから、

目を開けるつもりが、口が開く。肝心の目は閉じている。すると眼科医が「ここは歯医者じゃないから、口でなく目を開けて」と言う。嫌味に聞こえないのがいい。

ここは歯科で眼医者じゃないから、治療中、私はマスクを外している。治療が終わり、会計を待つために待合室に戻ったらすぐ、そこにいた患者の一人が私に近づき「マスクをして下さい」と言った。治療の椅子から降りて数歩。当然ながら、待合室に腰掛けたら、誰に言われなくてもマスクはするつもり、というよりそれは自然の行動。そんな余裕を私にまったく与えず、近づいた同年配の男が言ったのだ。

抵抗することもない。言い訳することもないから、私は無言のままポケットに入れてあったマスクを取り出して付けた。

何週間かして、予約してあった日、同じ歯科に行った。今度は治療が終わった時、歯科医が「マスクをして戻って下さい」と、私に言ったのだ。

前回、私に「マスクして下さい」と言った人のことを思い出した。勝手な思い込みだが、あの人が歯科医に、治療が終わったら患者にマスクをつけるように言ってくれと要求したのではないかと思った。前回、治療が終わり、待合室に戻って言われた時の間合いの、あの窮屈さと同じものを今日も感じたから、あの男

を思い出したのだ。

あまり縛られていないなどと思っていたが、思わず知らず体の隅々までしみ込んでいた被拘束感。それは自分だけではない。他人も拘束せずにはいられなくなっている。その人自身は追い詰められていない自然の、自発的な行動と、思っているかもしれないが、しっかり縛られているのだ。

それをうんと偉い人から「気のゆるみ」などと言われると、じゃ、あんたはどうなんだ。やってること、やらなければならぬことを、やってるのかなどと返したくなる。週末の天気はまた荒れそうか。今年、桜も見納めか。